

様式(9)

論文審査の結果の要旨

報告番号	甲 保 第 9 号	氏 名	武田 道子
審査委員	主 査 葉久 真理 副 査 田村 綾子 副 査 近藤 和也		

題 目 Development of a Mutual-Assistance Capability Training Program to Safeguard the Health of Local Residents in Evacuation Shelters after a Disaster
(地域住民に対する災害時の避難所での健康を守る共助力育成プログラムの開発)

著 者 Michiko Takeda , Toshiko Tada
2014年2月発行 JMI(The Journal of Medical Investigation), Vol.61,
No.1, 2 に掲載予定

要 旨 本研究は、被災時における地域住民の健康を守る共助力を育成するためのプログラムを作成し評価することを目的とした前後比較研究デザインである。

本研究では、研究者による「住民が避難所で実施した健康を守る共助内容に関する調査」と、「被災経験のない住民を対象に、健康を守る共助力育成に関するニーズ調査」を基盤に、被災時における住民を対象とした健康を守る共助力育成プログラム(以下プログラム)を作成した。作成したプログラムは、6 会場で実施し、参加者は 28 名であった。その評価は、質問紙調査とグループインタビューにより確認した。結果、質問紙による共助力 26 項目の平均点は、参加後 25 項目で高値であった。また、グループインタビューでは、【課題への気づき】を得て、【参加者間で危機感】を共有し、【地域の使命感の実感】を得ていた。このことから、本プログラムは、住民が避難所での健康を守る共助力を育成するために有効であると考えられ、被災者が支援を受けるだけでなく支援する立場になるとともに、住民自身が主体的にプログラムを活用できると考察している。

近年、世界的に自然災害が発生しており、日本においても災害の教訓から被災時における自助、公助、共助により被災を最小限に抑えるためのプログラム開発が進められている。共助に関しては、災害時要援護者の避難協力や消火活動などの教育訓練が展開されているが、本研究では、まだ取り組まれていない地域住民の健康を守る共助力育成に着目した点に意義がある。審査の過程において、プログラム評価指標の妥当性に関して議論がなされた。評価指標が、知識、技術、認識の3側面からの評価であることから、評価の時期やプログラム実施回数の検討が今後の課題となった。

論文審査の結果、本研究は、自然災害への備えとしての共助力育成に貢献するものであり、博士の学位授与に値するものであると判定した。